

辺野古土砂北九州

発行…2023年9月号・No.44



「平和のための戦争展」の当会の展示コーナーの前で記念写真。今年のテーマは「南西諸島軍事基地化と辺野古の今」にしました。

《目次》

【裁判】玉城デニー知事に激励文……………	2 ページ
【総会】議案は承認されました……………	3 ページ
【平和のための戦争展】当会も展示参加&伊藤千尋講演会を聞いて……………	8 ページ
【連続エッセイ】「戦没者名名簿」を読む②(浦島悦子)……………	11 ページ
【連続学習会・安保条約】第6回報告(天久泰)……………	12 ページ



発行 「辺野古土砂ストップ北九州」

民意 また切り捨て



最高裁 県敗訴

辺野古ゲート

「それでも諦め

辺野古県の敗訴確定

知事に承認
国連までに

最高裁



政府承認求める

地方自治

沖縄タイムスから



辺野古新基地建設をめぐり、軟弱地盤に伴う地盤改良のための設計変更申請を不承認とした沖縄県に対する国土交通相の「是正指示」は違法だとして、県が取り消しを求めた訴訟の上告審判決で、最高裁は9月4日、県側の上告を棄却しました。

● 県側代理人の加藤裕弁護士は、最高裁判決は高裁判決より後退した内容だと指摘し、「高裁は門の入り口に招き入れたが、最高裁は門外に追い払った」と憤りを見せました。

● 土砂全協からの呼びかけもあり、当会でも、知事を支える激励のメッセージを、沖縄県に送りました。

● 社民党県連は「立法の怠慢、行政の暴力に司法の墮落が上塗りされた悪夢だ」と。

《第9回定期総会報告》

議案は88名の承認で可決されました

8月26日、北九州生涯学習総合センターで開催された「辺野古土砂ストップ北九州」の第9回定期総会は、出席13名+議決書75名=88名の承認で可決されました。



総会の全体の様子



進行役の小田共同代表



開会挨拶の南川共同代表



情勢報告をする藤堂世話人



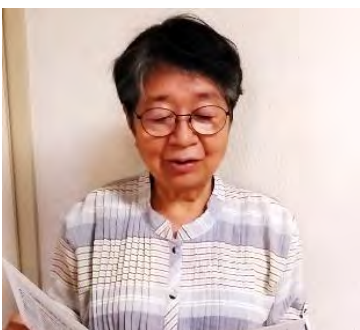
活動報告をする宗吉世話人



財政報告をする大野世話人



監査報告を代読する南川さん



左：活動方針を提案する八記世話人
右：役員紹介をする松本世話人

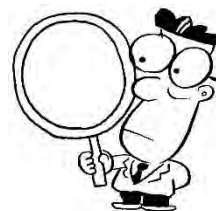


○当会の規約で、総会の成立は、以下のようになっています。

○総会…通常総会は、毎年 1 回開催し、臨時総会は、世話人会が必要と認めた時招集する。また、世話人会は会員の総会参加を働きかけたうえで、実際の参加者と寄せられた議決書を持って、総会の成立とする。また、議案については、総会参加者と議決書の多数の賛同を得たものを可決とし、賛同の少ない項目については、保留や否決と判断する。

○よって、この総会は成立しています。

総会は
成立して
いるのかな？



75 枚の議決書、ありがとうございました 寄せられた 33 のご意見をご紹介します。

(議決書は全員、すべての議案を「承認する」となっていました)

●いつも大変お世話になります。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

H さん

●「非は国にあり、正義は私たちにあり」ですが、日米という巨大権力・勢力とのたたかいは、世論形成と粘り強さが求められます。私、満身創痕の状態で、思うような活動ができないのを申し訳なく思っています。みなさんの日頃の活動に敬意を表します。M さん

●頑張ってください。N さん

●なかなか行動に参加出来ずすみません。様々な方面から平和を守る運動を広げて行く事がとても大切と思います。

Y さん

●粘り強い活動に心から敬意を表します。総会当日、別件と重なり欠席させていただきます。申し訳ありません。多くの方々の参加で元気のでのる総会となりますよう祈っています。M さん

●三上智恵さんの記事や浦島悦子さんの連載をいつも読ませていただいています。楽しみです。K さん

●同じ時間に田村貴昭さんの演説会を設定していて、すみません。A さん

●脳梗塞を患い入院していました。A さん

●毎月の小倉駅前での街頭宣伝、お疲れ様です。上映会等、行ける時は、これからも参加したいと思います。T さん

●ご苦労様です。本年度もよろしくお願
いします。 U さん

●会報もよくまとまっています。会計報
告ていねい。 K さん

●みなさん、ご苦労様です。私事、高齢
のため23年度限りで退会とさせていただきます。
お世話になりました。 S さん

●活動報告をみると、本当に地道な活動
を続けられている事がよくわかります。
また学習に力を入れているのもよいと思
います。なかなか日程があわず参加でき
ませんが(三上さんのスピノフ上映会
も結局行けず、残念!!)これからもよろし
くお願いします。M さん

●すべての議案に共感し賛同します。
M さん。

●辺野古土砂北九州で活動の皆様、
日々の活動、御苦労さまです。田川に住
んでいますので、ご一緒することがなか
なか難しいです。会費納入でお許し下さ
い。 M さん

●「台湾有事」を煽り、沖縄を再び戦場
にすることは、決して許せるものではありません。
皆様方の頑張りに励まされま
す。浦島さんのエッセイが毎回楽しみで
す。これからも、ぜひ頑張ってください。
I さん

●総会や学習会に参加できなくてすみま
せん。会報はきちんと目を通しています。
N さん

●第11回北九州人権問題公開講座の準
備の為、欠席させていただきます。頑張りましょ
う。 U さん

●米軍は日本国から全て撤退させて下
さい。百害あって一理なし。核の抑止な
どありません。どうか本国に帰って下さ
い。殺し殺されるはイヤです!! M さん

●酷暑の中、お身体大切にご活躍なされ
ます様に!! M さん

●頑張りましょう。 U さん

●「進まない埋め立て工事」をよんで、4
年半でようやく15%終えたと書いてあり
ました。できない事は、やめたらよいと思
います。ジュゴンもむりやり移してかわい
そうです。戦争前夜だという声もそうだ
と思います。K さん

●いつも活動敬服しています。(返信が
遅れてすみません。会費2022年度、20
23年度振り込みます) T さん

●いつも「辺野古土砂北九州」をお送り
いただきありがとうございます。日頃か
ら休みなく、粘り強く活動を続けてこれら
れていることに敬意を表します。これらの
活動を通して、辺野古の現状が北九州
にも正確に伝わっていることと思いま
す。総会議案を全面的に支持いたします。
K さん(団体会員)

●8月26日は、自治労連公企評の大会
があり、そちらに参加を予定しているた
め欠席です。Y さん

●立派な報告書！ ありがとうございます。
返事が遅くなってすみません。
Nさん

●福岡県議会への意見書の追及も出て
ます。その後コロナの方は問題ありませ
んが、佐賀のオスプレイもあり動き廻っ
ています。Iさん

●わかりやすい議案書で、活動が良く理
解できました。日本政府は国会での論理
もなく、対中国を相手に特に九州に米
軍、自衛隊基地の強化をしていることに
怒りを感じます。Nさん

●議案に賛成します。お疲れ様です。
Oさん

●辺野古にジュゴンが生息することを、
もっとマスコミを通じて広く知らせるこ
とが、大きな力になると思います。
☆ジュゴンとマナティー(フロリダに生息
する)の類似比較する etc. Hさん

●女性の役員を増やして下さい。Kさん

●ありがたいことです。後は若い人を呼
びこまなければと思います。Yさん

●P.2 この1年の情勢の所の頭に《1》
《2》この1年を振り返って
議案の p.2~p.8 が上の議案と一致す
るよう書いて下さると分かりやすかつ
たです。
《4》活動方針が2度書いてあります。
p.5の下から p.6まで
※太字は活動方針と書いてありますけ
ど…。 Kさん

《世話人会から》

ご意見・提案ありがとうございました

○下線を引いた 4 つのご意見について
は、総会の中で報告をし、総会後も世話
人会で論議しました。

○ジュゴンの事…マスコミに取り上げて
もらうのは、当会にとっては、かなり高
いハードルです。まずは、会員さんに知
ってもらおうと、ジュゴンの事を会報で
年内に取り上げることにしました。

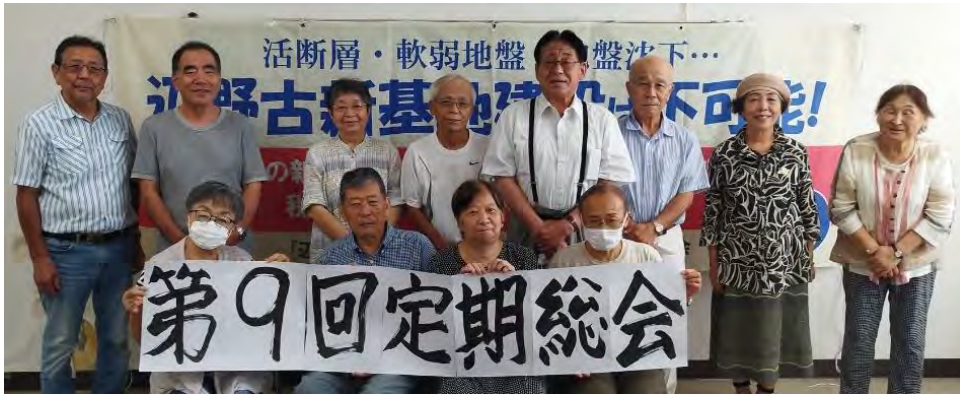
○女性と若者の比率…この課題は、以前
から論議しているのですが、克服できず
にいます。増やすための具体的な提案
や、成功した具体例を、みなさんからお
寄せいただけると幸いです。

○書き方について…まず、書き方が分り
にくかったことをお詫びします。

《議案の p.2~p.8 が上の議案と一致
するよう書いて下さると分かりやすかつ
た》について…会報に掲載した議案
書では、この1年を「情勢」と「活動」に分
けて書いてあるのに、議決書の葉書に
は、この2つをまとめて「活動報告」とし
ているので、議案書と葉書の議決書を、
一致した書き方にしたほうがわかりやす
い…と言うご指摘ですね。来年はそのよ
うに改善します。

☺

《活動方針が 2 度書いてありますが》
について…P5・P6 の「**■**この1年を振
り返って」の所に書いてある活動方針
は、1 年前の総会で決めた活動方針で
す。その方針に対して、この1年こんな
活動をしましたという報告をしていま
す。来年からは、書き方を工夫したいと
思います。



総会を終えて記念写真を撮りました。総会が終わると、ほっとします。

《新年度の活動方針》

《1》土砂全協の方針に基づいた活動を取り組むとともに、情報発信や学習等を取り組みます。

- 直接・間接的に知った現地の様子等を、会報で広く発信します。
- 毎月恒例の小倉駅前街頭宣伝を取り組みます。
- 講演会、学習会、上映会(映画・DVD)の企画を取り組みます。
- 沖縄の文化や思いを知る企画を取り組みます。
- 「会報」を定期発行し、情報提供の場・学習の場とします。

《2》自治体・議員への働きかけを行います。

- 県や市に対して、「辺野古新基地建設ストップ」「遺骨の混入する土砂を辺野古に使うな」「日米地位協定の改定を求める」の意見書の採択を求めています。

《3》しっかりした会の組織と財政を築きます。

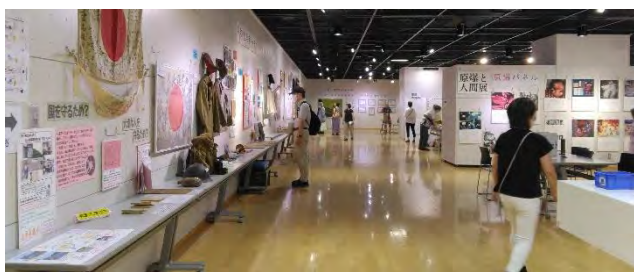
- 各種の取り組みを通じて、会員を増やします。
- 年度内の会費納入を働きかけます(会計年度のべは毎年5月31日です)。

《新年度の役員》

- 共同代表…小田恭司(年金者組合北九州市協議会)
南川健一(門司区9条の会)
三輪幸子(新日本婦人の会福岡県本部) ※以上、あいうえお順
- 事務局長…八記久美子(個人会員)
- 事務局次長…藤堂 均(個人会員)
- 財政係…大野保徳(個人会員)
- 世話人…宗吉信(個人会員) 松本秀樹(土砂全協役員兼務、個人会員)
- *
- 顧問…天久泰(弁護士・個人会員)
- 会計監査…後藤尚子(個人会員)

第28回「平和のための戦争展」で 南西諸島の現状をアピール

《第28回・平和のための戦争展》に、今回も「辺野古土砂ストップ北九州」として参加しました。今年の当会のテーマは「南西諸島軍事基地化と辺野古の今」。「沖縄平和サポート」からお借りした写真を、多数展示し、多くの方に沖縄や南西諸島の事を知っていただく、いい機会となりました。会報では、当日の写真・展示した島々からの声の一部・記念講演の内容をご紹介します。



上3枚は展示会場の全体の様子。一番下は当会のコーナーの前で、記念講演をされた伊藤千尋さんと一緒に写真を撮らせていただきました。

《宮古島からの訴え》

あなたの税金が弾丸となり 私たちの頭上に降り注ぐ未来

宮古島・清水早子

12月、宮古島には多くの市民が抗議する中、自衛隊のブルーインパルス戦闘機が来て、民間空港を軍事利用しました。

島々の空港も港湾も、自衛隊・米軍の「戦略(攻撃)拠点として自由に使いたいと言っています。切れ間なく日米共同訓練が沖縄周辺で続いており、近隣国に緊張を高めています。

政府は、住民避難にシェルター(防空壕)を作ると言っていますが、55000人が入るシェルターを作れますか？ 航空機で逃がすのに必要な400機を、一度に政府は用意できますか？ 琉球諸島160万人の住民は打ち棄てられようとしています。私たちの暮らす島々で、そういう戦争の準備を進めているのです。

あなたの納税した税金がミサイル弾丸となり、島々の私たちの頭上に降り注ぐ未来を想像してみてください。2023年3月記



上下とも、当会の展示コーナー。お持ち帰り用の資料は、大体なくなりました。



平和の大切さ実感できます

今年 28 回目になる「平和のための戦争展」は入場無料。多くの方の賛助募金で運営されています。(今年は 8 月 19 日(土)・20 日(日)で開催されました。)

参加者からは、「展示内容のテーマも様々で、実際に起きた現実を見て心を痛めた。二度とたたかいのない平和を願います」「手で触れて感じる事が出来るのは、素晴らしい展示だと思いました。鉄帽やリュックさえあんなに重いものだとは思っていませんでした」等、たくさん感想が寄せられていました。

初日は、別会場で合唱や記念講演などもあります。まだ参加されたことのない方は、是非一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。

《種子島からの訴え》 この地で生きる人生を この上もなく幸せに思う

種子島・目迫エミ子(元教師)

私はこの島で生まれこの島で育ち、そして現在もこの種子島で幸せに暮らしております。この島は四季を通じて住みやすく、この地で生きる我が人生を、私はこの上もなく幸せに思っております。

馬毛島は西之表市(にしのおもてし)に属し、身内同胞でもあります。かつては実際に人が住み、榕城(ようじょう)小学校の分校があり、もちろん、種子島との行き来も盛んで賑わっていたのです。

今、その馬毛島で、米軍との共同軍事訓練基地を目指して工事が始まっているのです。私たち西之表市民の反対・抗議の声などそっちのけ、日ごとに工事が進んでいるのです。

私たちはこのまま黙っていいのでしょうか。私はそれではいけないと思います。今生きている我が身だけではなく、この先、未永く続いていくであろう未来の人たちのためにこそ、更に更に住みやすい郷土を残しておくべきではないかと思えます。

種子島のみなさん、そして全国日本の皆さん、今こそみんなで力を合わせ声を一つにして「馬毛島基地着工反対」の声を、もっともっと大きく挙げていきましょう。

「平和のための戦争展」での、伊藤千尋さんの記念講演を聞いて

「九条は国籍を超えて人類を守る」に共感 誕生の裏に、幣原喜重郎とマッカーサーがいた

辺野古土砂ストップ北九州 世話人 八記久美子

■話の肝はここ

伊藤千尋さんのお話の肝は、「憲法九条は国を超えて人類を守る」という事だったと思います。また、その前段の、幣原喜重郎(しではらきじゅうろう・吉田茂のひとつ前の総理大臣)とダグラス・マッカーサーの秘密会談の部分は、生の日本史を垣間見るようでした。二人のやり取りを一言でいうと、「幣原が憲法に九条を入れることを提案し、マッカーサーがそれを受け入れた」というもので、私はその所もう少し知りたくて、図書館から本を借りてきました。

■幣原喜重郎は…笠原十九司著「憲法九条と幣原喜重郎」(2020年4月発行)から

まず幣原ですが、笠原十九司さんの本には、次のように書かれています。【憲法九条に折り込まれることになる内容で二人は意気投合し、それをマッカーサーから「命令として出してもらい」「おしつけられたという形」をとることにしたのである】。

この選択の背景には、世の中が、天皇の政治・軍事権力を一切奪うような象徴天皇制を、幣原首相が国民に向けて主張できる状況になかったことがありました。

■マッカーサーは…ダグラス・マッカーサー著「マッカーサー大戦回顧録」から

次にマッカーサーですが、回顧録には次のように書かれています。【首相は…いわゆる「戦争放棄」条項を含め、その条項では同時に日本は軍事機構はいっさいもたないことをきめたい、と提案した。そうすれば、旧軍部がいつの日かふたたび権力をにぎるような手段を未然に打消すことになり、また日本にはふたたび戦争を起こす意志は絶対がないことを世界に納得させるという、二重の目的が達せられる、というのが幣原氏の説明だった。…(中略)…首相はさらに、日本は貧しい国で軍備に金を注ぎ込むような余裕はもともとないのだから、日本に残されている資源は何によらずあげて経済再建に当たるべきだ、と付け加えた。私は腰が抜けるほどおどろいた。】

■歴史と国境を越える、憲法九条の力

さらに、幣原喜重郎は、「世界の共通の敵は戦争それ自体である」と語り、マッカーサーは「戦争を国際間の紛争解決の手段として廃止することは、私の夢だった」と語っています。いずれも77年前の発言です。

伊藤千尋さんが紹介してくれた、1987年にノーベル平和賞を受けたコスタリカのアリアス大統領(当時)は、「平和憲法を持つ国は、自分だけが平和で満足してはならない。世界を平和にするのが平和国家の役割だ…最も良い防衛手段は、防衛手段を持たないことだ」と語っています。この講演で、私は「九条」が巨大な力を持っていることに初めて気が付きました。いつまでも拍手が鳴りやまない素晴らしい講演会でした。

「戦没者名名簿」を読む②

ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表／フリーライター



8月初め、「ブーメラン台風」とか「Z台風」とか言われ、行きつ戻りつ、まるまる1週間も沖縄に居座った台風6号。凄まじい暴風と線状降水帯の中で、これを動かすエネルギーになっているのは「人間の悪行」なのではないかと私は感じていた。被害続出の中で、老朽プレハブの我が家に大きな被害がなかったこと、土砂災害警戒区域に指定された裏山にも異変がなかったことは幸いだったが、長期間の停電に苦しめられ疲弊した。

一方でちょっとした収穫もあった。一晚だけ区の公民館に避難したのだが、その際に「三原区戦没者名簿」のコピーを持参し、一緒に避難した2人の区民（90代と80代の女性）にそれを見せながらお話を聞くことができた。

名簿によると、三原で最も早い戦没者は、1936(昭和11)年9月12日、満州で亡くなった伊是名雅慶さん(享年22歳)。日本は、満州事変を起こして占領した中国東北部に1932(昭和7)年3月、傀儡国家「満州国」の建国宣言を行い、1936年には満州農業移民百万戸移住計画を提唱。沖縄も含め日本各地の貧しい農村から多くの農業移民を送り込んだ。

名簿では、伊是名さんの身分も戦没状況も空白になっているため詳細は不明だ

が、親戚と思われる同姓の90代女性に聞いたところ、三原で初めての戦死者となった彼は「軍神」として崇められ、区内に慰霊塔が建てられていた（現在は残っていない）。当時の政府は戦争に向けた「挙国一致」体制作りのために沖縄にも皇民化教育を徹底させようとしていた。「天皇のために勇敢に戦って命を捧げた」伊是名さんを三原区民の模範にしたいという狙いがあったのだろう。

戦没者名簿から見る三原の特徴の一つは、近隣区に比べ一般住民の死者が少ないことだ。例えば隣の汀間区は77人の戦没者中、一般住民が48人と圧倒的に多く約62%、その隣の瀬嵩区でも46人中27人と58%余を占めているが、三原は20%足らず。その理由は今後解明していく必要があるが、調査不足もあるかもしれないと、お二人に「この名簿に載っていない人で戦時に亡くなった人を知りませんか？」と聞いてみた。

すると、お二人とも、家族や親戚の幼い子がマラリアで亡くなったことを教えてくれたのだ。この子どもたちは「平和の礎」にも刻銘されていない。これからでも追加刻銘できることを伝えると、ぜひそうしたいとのこと。まだまだ調査が必要だ。（うらしまえつこ）



70年代末に「日米同盟」に変容し始め 冷戦後に「日米同盟」関係が定着



今回は、
テキストの
134～155Pまでの
報告です。

※学習した内容は、以下の通りです。小見出しは省略していますが、編集者の方でキーワードとなる文言・事項を太字にしています。

講師・まとめ
天久泰(当会顧問・弁護士)

前回は、60年代以降米軍基地による「基地公害」や墜落事故等の深刻化を受けての基地返還の動き、その反面としての沖縄の基地負担増、72年2月ニクソン訪中に象徴される世界情勢の多極化と、米国の核抑止力への依存を前提に日米の役割分担を定めた「第四次防衛力整備計画」の策定、78年11月の「日米防衛協力のための指針」(78ガイドライン)合意、金丸信防衛庁長官による「思いやり予算」の端緒となる発言、中曽根政権下での82年12月の防衛費前年比6.5%増、武器輸出に関する規制緩和、対米武器技術供与の動きなどについて学びました。

さて、今回学習した内容は…

1. 「湾岸のトラウマ」

冷戦終結後、世界は新たな危機に直面した。1990年8月2日にサダム・フセイン大統領のイラクがクウェートに侵攻したのである。その頃経済摩擦を背景として、米国の「ジャパンバッシング」が広がっており、湾岸危機への日本側の対応は米国から注目されていた。

89年8月5日、海部俊樹政権は国連安保理よりも先に対イラク制裁を決定した。日本は平和憲法を理由に人的貢献ではなく、多国籍軍への10億ドルの拠出を行ったが、米議会から「少なすぎ、遅すぎる」と批判された。

91年1月17日、多国籍軍はクウェート解放をめざす「砂漠の嵐」作戦を開始し、湾岸戦争が始まった。この頃までに日本の財政拠出は総額130億ドルに達した。日本は増税までして国民一人当たり1万円以上の負担となる拠出をしたのである。その巨額の支出にもかかわらず米議会からは厳しい批判が浴びせられた。これが「湾岸のトラウマ」となった。

しかし、さまざまな理由に基づく「湾岸のトラウマ」は客観的に見れば根拠は薄く、単に「自衛隊を出さなかったからこうなったんだということに使われた可能性がある」というある官僚の指摘があるように、米国の要求に応じて自衛隊を海外に派遣するための口実とされた面があったといえる。

2. 湾岸戦争と在日米軍

湾岸危機と湾岸戦争の際、多くの米軍艦船、米軍機が日本側との事前協議なしに在日米軍基地から出動した。出動した兵力は約15000名と推定された。国会では野党が在日米軍の湾岸戦争への参加を問題視した。在日米軍が湾岸戦争を行ったことは、「政府が言ってきた極東条項や事前協議のあり方というのがいかに虚構であり偽りであるか」を示していると追及された（社会党・上原康助）。政府は、極東条項とは無関係にどこにでも「移動」可能であり、在日米軍は湾岸に移動した後に戦闘任務を与えられたため、安保条約上何ら問題はないとの立場をくり返した。

在日米軍が「極東」をはるかに超えて中東での戦争を戦った湾岸戦争により極東条項が空洞化し、在日米軍の活動範囲の「グローバル化」が決定的となった。

3. 自衛隊のペルシャ湾派遣

91年4月、海部政権は機雷等の除去について定めた自衛隊法第99条を根拠に、日本船舶の航行の安全を確保するためとして、海上自衛隊の掃海艇をペルシャ湾に派遣した。外務省には、自衛隊を出さなければ安保体制がゆらぐとの認識、すなわち「見捨てられる恐怖」があった。武力行使に踏み込んだものではないとはいえ、戦後初の自衛隊の海外派遣で日本の安全保障政策は大転換を遂げた。自衛隊の海外派遣は憲法に反するとの強い批判があったが、半数以上の国民から肯定的な評価を受けた。

4. PKO協力法の成立

92年6月、宮澤喜一政権下で、自民、公明、民社の賛成で自衛隊を国連平和維持活動（PKO）に参加させる国際平和協力法（PKO協力法）が成立した。憲法を重視する公明党の反対で停戦監視、緩衝地帯などにおける駐留・巡回など武力行使につながりやすい国連平和維持軍（PKF）本体業務への参加は凍結された（2001年法改正で凍結解除）。同年9月、自衛隊はカンボジアPKOに参加し、道路の補修作業などに従事した。

小沢一郎は対米協力の一環として、「普通の国」として自衛隊による国際貢献を強く主張したが、本来、国連の集団安全保障や平和維持活動への協力と、対米協力は別の問題である。もっとも、冷戦後の日本においては、国際貢献は対米協力の一環であり、国際貢献と安保体制強化が渾然一体となって進んでいくことになる。

5. 日米「同盟」の定着

92年の外交青書は、ソ連崩壊で冷戦は「名実ともに終焉した」が、「日米同盟関係の中核」である「日米安保体制の日本にとっての重要性は変わらない」と主張した。92年1月の宮澤・ブッシュ会談で発表された「日米グローバル・パートナーシップに関する東京宣言」は、「日米同盟関係の中核」をなす安保条約の堅持を再確認し、「この同盟関係は、両国がグローバル・パートナーシップの下で…各々の役割と責任を担うべく協力していく上での政治的基盤」であり、アジア太平洋地域の平和と安定のために重要である、と宣言した。

ここで考えておかなければならないのは、「日米同盟」の定義である。例えば、外交青書や防衛白書は、「日米安保体制を基盤とする日米同盟」といった形で、「日米安保体制」と「日米同盟」を使い分けている。しかし、他の政府文書や政治家の発言などでは両者の区別が明確ではない場合も多い。本書（テキスト）では「日米安保体制」と「日米同盟」を区別し、「日米同盟」を、特定の状況下において他国に対して軍事力を行使するための日米の公式の結びつきであり、共通の敵に対して軍事的な力を結集させることを第一義的な機能とするものと理解する。この定義によれば、安保体制は当初「日米同盟」と呼べるものではなく、70年代末に「日米同盟」に変容し始め、冷戦後に「日米同盟」関係が定着したと解釈できる。

6. 安保再定義

93年8月に非自民連立政権が発足し、細川首相は核開発を進めNPT脱退を行った北朝鮮の動きを受けて、北朝鮮有事の際に日本ができることを検討するよう指示し、諮問機関として「防衛問題懇談会」を発足させた。その後94年6月に発足した村山富市連立政権下で、防衛問題懇談会の報告書が提出され、その中に日米安保体制よりも多角的安保体制を重視しているような印象を与える箇所があったため、米政府内には日本の「米国離れ」を懸念する声広がった。

米政府から95年2月に公表された「東アジア戦略報告」（通称：ナイレポート）は、地域の安定のためアジア太平洋に10万人の米軍を維持することを明らかにした。冷静終結後、在欧米軍が30万人から10万人程度へ急速に削減された動きとは対照的であった。この報告を受け、95年11月、日米協議を経て防衛省は防衛計画大綱（95大綱）を発表した。同大綱は、米政府の懸念を払拭するため、日本の国際協力や災害救助を重要な任務と位置づけるとともに、安保体制は「我が国周辺地域における平和と安定を確保」するために欠かせないと強調した。95大綱の最も重要なポイントは「我が国周辺地域において我が国の平和と安全に重要な影響を与えるような事態」が発生した際には「日米安全保障体制の円滑かつ効果的な運用を図ること等により適切に対応する」と明記されたことである。

96年1月に橋本龍太郎連立政権が発足し、同年4月の橋本・クリントンが発表した「日米安全保障共同宣言」では、安保体制が「アジア太平洋地域の平和と安定」のために重要な役割を果たすことを確認し、「日米間の安全保障面での協力を促進」する方針を示

したものとしてされた。NATOの東方拡大への警戒感や、安保再定義の直前に台湾海峡危機が発生して米中関係が緊張したことから、中国は安保再定義以後の安保体制強化に反発した。中国は、台湾海峡が日米防衛協力の対象となることを警戒していたのであった。90年代半ば、それまでの日中友好ムードは急速に後退した。

日米中は、軍備増強や同盟強化といった自国の安全を高める措置が、相手国の対抗措置を招き、かえって安全保障環境を悪化させるという「安全保障のジレンマ」に陥った。

安保再定義後、97年9月に新たなガイドライン(97ガイドライン)が合意された。それは日米防衛協力を、①平素の協力、②日本有事、③「周辺事態」に分け、日米の役割や調整のあり方を定めたものであった。(あめくやすし)



《声の欄》

会報の感想・辺野古に関する思い・ご自分のこと等々、お気軽にあなたの声をお寄せ下さい。字数は、250字以内(必ずあなたのお名前と連絡先をご記入下さい)。送り先は、最終ページ記載のメールアドレスか住所。毎月「最後の水曜日までに届いた原稿」については、翌月の会報に掲載できると思います。

■築城基地に行きたいけど…

- 築城基地がどうなっているのか気になるけど、一人では行けません。会で行く計画があると嬉しいです。(小倉・Kさんから)
- 8月の世話人会は終わったばかりなので、9月27日の世話人会で検討しますね。(世話人)

■96才この夏を乗り切りました

まだまだ暑い日は続いています
が、それでも今までの暑さとは違
います。96才の母も、バテること
なく、この夏を乗り切りました。あ
ーよかった。(私はバテました。高
齢の娘)

《辺野古土砂北九州・今後の予定》

- 9月22日(金)…《小倉駅前街頭宣伝》16時～ ※今月は金曜日です
- 9月27日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 10月04日(水)…《会報発送》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 10月14日(土)…《天久学習会》10時20分～ zoom
- 10月25日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 10月28日(土)…《小倉駅前街頭宣伝》16時～
- 11月04日(土)…《三上智恵監督講演会》14時～ 男女参画共同センター ムーブ



「辺野古土砂ストップ北九州」への入会は

年会費(個人 1000 円・団体 3000 円)を下記に振り込んでください。入会申込書と会報をお送りします。

【辺野古土砂北九州の口座は】 ゆうちょ銀行 記号番号 01700-7-166911

【他金融機関から振り込む場合は】 ゆうちょ銀行 当座 一七九店 0166911

加入者名…「辺野古土砂ストップ北九州」

【財政・入会・退会に関するお問い合わせ】

090-4482-0043 大野保徳まで。

※振込用紙には、会費・カンパ・入会など、内訳をお書きください。

※領収書は、現金で会費をいただいた方のみお送りし、振り込みの方にはお送りしていません。申し訳ありません。



《辺野古土砂ストップ北九州》

メールアドレス…kanpanerura888k@gmail.com

〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田 1-3-32-308 八記方

八記 080-1730-8895・南川 090-2853-7116・藤堂 090-6299-2608

2023 年 9 月 13 日発行